

体験事業ドキュメント（総集編）

～事前研修から帰国報告会までの様子を団員の日記と併せて紹介します～

6月16日(土)、6月30日(土)～7月1日(日)

第1回・第2回事前研修

体験事業についての説明



語学講座（シンハラ語）



語学講座（自習時間）



青年海外協力隊 体験談



現地の食べ方の体験



現地での出し物の話し合い



おはら節の練習



事前研修を終えて



7月25日(水)

結団式・出発



この1週間の目標は!?

「夢を見つける」「異文化を体験する」
 「発展途上国の現実を理解して、日本生活を見直す」
 「現地の人とたくさん交流していい時間にする」
 「少しでも自分やみんなが笑っていられる時間が増えるように努力する」

団員の言葉



「この夏一番の思い出にする」
 「スリランカの文化を吸収!そして日本文化を伝える」
 「現地の人と友達になる」
 「たくさんのことを学びこれからの将来に役立つ知識を増やす」
 「スリランカの良いところをたくさんを見つける」

団員の言葉

7月26日(木)

午前：JICA スリランカ事務所 訪問



「車のクラクションの音がとても大きくて印象的」
 「一番興味深かったのは、介護・保育施設に入れるという意識が国民の中で少ないということだった。自分の家族の面倒は自分で看るという心が、広く浸透しているのだなと感じた。」

池亀 美羽

7月26日(木)

午後：入村式・ホストファミリーとの対面（ウラボラ地区）

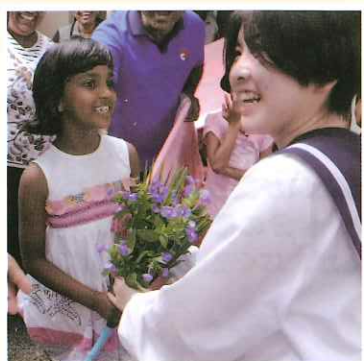


「お母さんたちが日本語を勉強していた。とてもうれしい。」

今別府 幸芽

「ホストファミリーはとても優しく出迎えてくれた。家に着いたとき、上手くコミュニケーションが取れず、会話帳を必死に読んだり指で指したりしていた。」

福田 正宗



7月27日(金)

午前：青年海外協力隊活動現場視察（山尾紗代 隊員・動物学）
国立動物園局デヒワラ動物園



「周りの方々からたくさん褒められていた山尾さん。もし自分が将来協力隊員として海外に行ったら、あんな風に言ってもらえたら嬉しい。」

永谷 玲葉奈



「日本では当たり前だと思っていることでも、スリランカの人には当たり前ではないと言うことがよく分かった。意識ややり方を変えることはすごく難しいと思った。」

鮫島 舞雪



7月27日(金)

午後：ヤタワカ小学校との交流会



「ウェルカムジュースをふるまっていたき、本当に歓迎されているなと心から思った。子どもたちに笑顔を見せると、向こうも照れながらアイコンタクトを取ってくれて有り難かった。」

丸山 健生



「学校は山の中にあった。遊具は少なく、校庭と呼べる運動場も無かった。生徒達はとても小さかった。」

松山 和子



7月28日(土)

ホストファミリーと過ごす



「学校に来ていた子どもたち
10名くらいとクリケットをした。
日本では女子も野球をする
から一緒にしようと言うと、
3人中1人がしてくれて嬉し
かった。」

徳永 隼也



「お互いに分からないときは、ジェスチャーを用いて
コミュニケーションをとった。コミュニケーションが
一番不安だったが、言葉の違いは乗り越えられるこ
とを体験できて良かった。ホームステイはすごく楽
しい。辛いのが苦手な私に辛い料理を作ってく
れたり、いつも手を握って行動してくれる。感謝し
かない。」

今村 心美

7月29日(日)
ホストファミリーとのお別れ会



「ウラポラの人達はすごく心が温かく優しく、この村でホームステイができて、とても嬉しかった。」

園田 玲音



7月30日(月)
午前：村とのお別れ会



「本当に帰りたくないと思ったし、またホストファミリーや村の人々に会いに来たいと思った。村の人みんなで鹿児島に来て欲しい。スリランカ人の温かさを感じ、自分の悪いところ、良いところを知ること出来た。」

板元 麗



7月30日(月)

午後：青年海外協力隊活動現場視察（長部千寿 隊員・保健師）
ケゴール県保険局デヒオウィタ保健所



「食生活についての講演はとても興味深かった。自分のホストファザーも心臓発作で亡くなった。このことについて話すホストマザーの顔は忘れられない。国をよくしたいと思う気持ちは、そういうことから生まれるのだ。ユニセフが発表した4つの子ども権利について、「生きる・育つ・守られる・参加する」といった当たり前のことさえ守られない国があることに驚いた。ぜひ青年海外協力隊に参加しようと思う。」

木下 耀太



7月31日(火)
コロンボ視察(周辺観光)



「ヒンズー教のお寺は、とてもきらびやかで大きなものが多く、興味深かった。ジャヤワルダナ大統領の博物館では、ジャヤワルダナさんが日本の再出発の後押しをして下さったことを再確認でき、『憎しみは憎しみでは終わらず、愛することによって終わる』という彼の愛のある言葉をもっと日本人にも知って欲しいと感じた。」

杉田 百花



8月1日(水)
帰国・解団式

